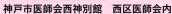
〒651-2103 神戸市西区学園西町4-2



平日9:00~17:00(土日祝日:休み)



西区サポセン通信

Vol.7

『医療・介護における地域連携』 神戸市西区医師会 中本 博士副会長

本年度から、西区医療介護サポートセンターの指揮命令者に新たに加わりました。西区医師会では副会長、兵庫県医師会では理事を務めています。私の担当は、庶務、救急・災害医療、学校保健、医療安全対策倫理自浄作用活性化、警察医、組織力強化の各委員会で、医療介護分野は、ほぼ自院での診療経験の知識のみです。長年に渡り、石原副会長にリードして頂いてきましたが、今後は少しずつでもお役に立ちたいと考えています。あまり良いことがなく8カ月余りが過ぎてしまいましたが、コロナ禍で奮闘されている皆さんへ何か一言ということで、今回は、「医療・介護における地域連携」というテーマで少しだけ述べさせて頂きます。



西区医師会 副会長 中本 博士氏

今年2月中旬ころから世界中で死亡者が増える中、日本でもダイヤモンドプリンセス号の入港以来、兵庫県では3月1日に西宮市で、神戸市では3月3日に新型コロナウイルス感染症第1号が報告されました。以後、皆さんが知っている芸能人が亡くなり、強靭な肉体を持つスポーツ選手の病床での姿を見て、多くの国民が衝撃を受けました。そして「近づいたらうつる。うつったら死ぬ。」と、全世界で接触を制限する新しいライフスタイルが始まりました。6月には一端小康状態となったものの、8月からは再び感染者増加に転じ現在まで明らかな減少は認めません。今後は冬季に向かい更なる患者増が予測され、インフルエンザ等の発熱患者と合わせた対応が臨床の場で急がれています。日々の外来診療と在宅患者とのバランスを考えた対応が、全ての診療科の医師に求められることになります。

元々、地域包括ケアシステムの構築の課題は、高齢化の進展(特に、団塊の世代が75歳以上に達する2025年)に伴う慢性疾患や複数疾患を抱える患者の増加、リハビリテーションニーズの増大、自宅で暮らしながら医療を受ける患者数の増加等、医療・介護ニーズの変化に対応することとされています。具体的には、高齢者が住み慣れた地域で生活を送ることができる社会、例え入院しても患者ができるだけ早く地域社会に復帰し、地域で継続して生活を送れる社会を目指すことが大切です。入院の特徴により、がん患者の場合の複雑なもの、心不全患者の場合の入退院を繰り返すもの、その他、誤嚥性肺炎や骨折や脳卒中の場合など急性期治療やリハビリテーションの効果があり在宅に移行しやすいもの。全てにおいて多職種の連携が不可欠であることは、以前からの医療関係者共通の認識です。

西区では平成29年4月に西区医療介護サポートセンターが開設され、地域医療のコーディネーターとして様々な役割を果たしています。しかし、その何年も前から、多職種の連携は確実に形になっています。この長い時間を掛けて構築してきた多職種での「顔の見える関係」を今こそ最大限に活用して、情報交換、情報共有する時だと思います。見えない敵に立ち向かうためには、正しい情報を基に正しく理解して、そしてそれを正しく伝えていくことが最も大切です。一堂に会することが難しい状況ではありますが、わからないこと、不安なことがあれば、いつでも相談できる関係を続けていたら必ず先が見えてくると思います。

■『研修会』報告

第12回医療・介護関係者の研修「多職種勉強会」~地域で生きるために~

『訪問診療の現状と課題 多職種連携について』

日 時:令和2年11月12日(木曜日)18:00~20:00 オンライン 参加者:77名

座 長 : 西区医師会 副会長 石原 健造氏

講演者:川井田泌尿器科クリニック 院 長 川井田徳之氏

ないとう眼科

院 長 内藤 公子氏

いでい皮ふ科

院 長 出射 敏宏氏

西区歯科医師会 副会

副会長 藤田 邦夫氏

西区薬剤師会 理事畑中慎司氏









参加者





出射敏宏先生





藤田邦夫先生

畑中慎司先生

て頂きました。眼科の内藤先生は、検査器具や眼球の模型を使って、往診の様子をお話下さり、事例紹介からは、先生の在宅診療への熱意を感じることができました。皮膚科の出射先生からは、沢山の写真を使って主な皮膚科疾患の治療やその経過をお話し頂き、往診依頼時に必要な情報や観察のポイントを教えて頂きました。歯科の藤田先生からは、西区では、22名の歯科医が訪問歯科診療に対応されており、往診依頼方法や歯科衛生士による訪問口腔ケアについてご紹介頂き、健口体操についても説明して頂きました。薬剤師の畑中先生からは、訪問薬剤師の役割をお話し頂き、かかりつけの薬局や薬剤師を持つことで、気軽に相談にのって頂けることを教えて頂きました。それぞれの先生方から訪問診療や往診においては、在宅で療養をされる患者様やご家族を支える支援者が必要であり、その支援者同士の連携が大切であるとお話し頂きました。

サポートセンターには、毎月の様に泌尿器科・眼科・皮膚科の往診についてのご相談があり、往診して頂だける専門科の先生が少ないのが現状です。しかも、今回のご講演で、在宅での診療内容を具体的に教えて頂き、先生方がそれぞれの専門分野において使命感を持って在宅の患者様やご家族を支えようとされているご様子に触れ、その存在の大きさを感じました。アンケートからも初めて知る事柄が多く、大変有意義な研修であったとの意見を沢山いただくことができました。



※訪問診療とは、訪問日時を決めて定期的に医師が訪問し診療を行う事を言い、 往診とは、突発的に体調不良となった時等に医師が訪問し診療することを言います。

■ これからの研修会予定

第13回 多職種勉強会~地域で生きるために~(仮)『コロナ禍における心不全在宅管理について

日 時:令和3年1月21日(木曜日)14:00~15:30 場 所:オンライン(Zoom)

内容:講義と質疑応答 詳しい内容が決まり次第

講 師 :西神戸医療センター副院長 循環器内科部長 永澤 浩志氏 ホームページでご案内します。



サポートセンターの活動や研修会の報告を ホームページ に紹介しております。 是非一度 チェックしてみて下さい! ホームページ: https://kobe-iks.net/

■ 西区で活動している多職種紹介 《神戸市ケアマネジャー連絡会》



神戸市ケアマネジャー連絡会 理事 藪本 眞理子氏

「地域で最期まで生きるには ケアマネジャーの役割」

神戸市ケアマネジャー連絡会 理事 藪本 眞理子 氏

平素より医療・介護におきまして、皆様方には多大なご尽力を賜り厚くお礼を申し上げます。私達ケアマネジャーとはいったい何をする人と一言では表せないですが、介護保険法ではあんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所、介護老人保健施設、特別養護老人施設、特定施設(有料老人ホームなど)、グループホーム、小規模多機多機能型居宅介護などにケアマネジャーとしてそれぞれの立場で位置づけされています。施設アマネジャーの存在を知って頂きたい思いでここに書かせてもらいました。

またケアマネジャーは基礎資格を5年経験して介護支援専門員試験に合格し基礎実務研修を終了して初めて資格を取得できます。ケアマネジャーとして5年経験して主任の研修を受けると主任ケアマネジャーになれます。ただし5年ごとに更新研修を受け更新申請をしないとケアマネジャーを継続することはできません。

主任ケアマネジャーはあんしんすこやかセンターと協働して、地域づくりや社会資源の発掘などを行政、警察、消防、地域の方々を巻き込み地域への貢献をする事や支援者の支援(事例検討)をするという役割を持っています。(西区には主任ケアマネジャー連絡会があります。他区にはない任意団体です。)

ケアマネジャーの役割は、その人らしい日常生活をしていく中で何ができて何ができないのか何を必要としているのか。生活していく上で取り巻く環境(健康面・精神面・身体面・生活歴・環境面・家族関係等)を見極めるために情報の収集(アセスメント)を行います。

で見極めるために情報の収集(アセスメント)を行います。 例えば、ガン末期の方や認知症になられた方、進行性の疾患の方など

が退院することとなり自宅に帰る際には当然ながら病院との連携を行います。その人が地域で生きていく中でできない所だけに目を向けるのではなく、その人は何ができるかという強みを見ていきます。当然ですが医療との連携は欠かせません。生活していく中で、何を望んでいるかをその人と家族を中心に意思決定ができるように、主治医の先生をはじめ、歯科医、薬剤師、訪問看護、リハビリの専門職、訪問介護、通所介護、福祉用具専門員、管理栄養士、状況によれば施設のケアマネジャーなど多職種が集まりその方のチームを作り、当然ながら情報を共有し、自立した日常生活目標を一緒に共有します。これが担当者会議になり、一緒にケアプランを作り実践し評価していきます。また、単に医療や介護保険のサービスを導入するのではなく、地域での社会資源も活用し、その人の強みも盛り込みます。

その人がその人らしく地域で生きるためには**医療と介護が両輪になれるようにつなぎ、その人が最後まで日常の自立した生活というハンドル操作**ができるように見守りを行い、操作を間違えそうになれば共にハンドルを握り、助言や修正をし「どう生きたいか」を再度確認し、必要に応じて医療に情報を伝え、指示をもらい、チームで共有し、必要なサービスにつないだりして調整を行い、その人の意思決定支援をするのがケアマネジャーの役割になります。

今後はアドバンズ・ケア・プラン (ACP)を神戸市では医師会の協力のもとにケアマネジャーが担う方

向で求められています。すべてのケアマネジャーが医療に強いわけではありません。ここでお願いですが、 医療に携わる方々にご相談させていただくことがあるかと思います。その時は快く優しく相談にのっていた だけますようにお願い申し上げます。

最後になりましたが、このコロナ禍、担当者会議や退院前カンファレンスも困難となり、Webで開催され る事が多々見受けられます。これを機会に西区でもWebの取り組みをしていただき、西区全体に連携しやす い医療、介護のネットワークができることを願います。 🧦 🗱 🗱 🗱 🗱 🗱 🗱 🗱 🗱 🗱

『研修会』報告

第11回医療・介護関係者の研修「多職種勉強会」〜地域で生きるために〜 『高齢者の難聴・めまい・嚥下の問題について』



時:令和2年9月17日(木曜日) 場所:プレンティホール 参加者:38名

師:西区医師会会長 増井 裕嗣氏「難聴と補聴器・めまい・嚥下機能と障害について

総合リハビリテーションセンター言語聴覚士 廣居 直子氏「嚥下の問題について」 増井裕嗣先生 度足直子先生

感染予防対策を講じての開催となりました。増井先生からは、難聴は認知症予防可能なリスクの中でも最 大のものであり、耳垢の有無の観察や障害の程度のチェックをする事、補聴器の使用が効果的である事など 具体的な支援についてご講演頂きました。廣居先生からは、嚥下のメカニズムや摂食嚥下障害の原因など解 りやすくご講演頂き、食事時の姿勢、嚥下、介助のチェックポイントやアプローチについてご指導頂きまし た。参加者からは、大変解りやすく、実践に活かすことのできる研修であったとの感想を頂きました。

第7回多職種連携事例検討会〜地域で生きるために〜『環境?生活?その方の大切なものに気づく』

日 時 :令和2年10月8日(木) オンライン パネルディスカッションによる事例検討 参加者:66名

パネラー:おひさま訪問看護ステーション 所 長 稗田 洋子氏

神戸白鷺病院医療福祉相談室 室 長 沖田 修司氏(事例提供者)

神出あんしんすこやかセンター 主任ケアマネ 守口 博康氏

あいの森 ケアマネジャー 管理者 藪本眞理子氏

事例1:精神発達遅延があり母親からの虐待で入院となったケースを通じて、8050問題にも焦点をあて検討。

事例2:妄想障害はあるが、ペットを生きがいに劣悪な環境の自宅に帰りたい患者の退院支援について検討。 いずれの事例検討でもそれぞれの専門職からの意見が活発に述べられ、質疑応答により事例への理解と支 援の在り方を深めることができました。包括からは、地域のアセスメントを今後もしっかりと行い支援に繋 げて行くことが述べられ、訪看からは、家族システムの中でのその人の力の活かし方について述べられまし た。また、ケアマネジャーからは、具体的なアセスメントと病院をはじめとする多職種の連携の大切さが述 べられ、事例提供者のPSWから、各職種からの視点で課題を発見することができ、大変参考になったことに 加え、精神科患者が退院することの難しさと地域支援者の協力の必要性が訴えられました。

アンケートからは、職種によっての捉え方や注目すべき点の違いから考え方の幅が広がる研修であったこ と。また自身のケースを振り返ることができ、在宅を諦めないチーム作りを考えるきっかけとなったなどの 意見を頂くことができました。

編集後記 この度初めて「オンライン研修会」を開催しました。ご参加された方は如何でしたでしょ! うか。次回の参加を迷ってられる方、**カメラ・マイクがなくても参加できます**ので一緒に学びましょう! "医療介護の相談"等がありましたら、是非ご連絡下さい。来年もよろしくお願いいたします。(田中・溝端)